

# 函館貴重児童雑誌付録・児童雑誌データベース

## 平成 25 年度収録作品概要

高橋晶子・横田由紀子・柴村紀代

<記述内容:番号 雑誌名 巻号 発行年 冊数 備考> なお、末尾の\*マークは巻号データのみ収録を表す。

### 1 赤い鳥 1巻3号～12巻1号 1918/9/1～1936/7/1 186冊 赤い鳥社

1918/7 創刊～1936/10 終刊

1巻3号、2巻1号～6号(2号欠)、3巻1号～6号、4巻1号～6号、5巻1号～6号、6巻1号～6号、7巻1号～6号、8巻1号～6号、9巻1号～6号、10巻1号～6号、11巻1号～4号(1923年、関東大震災のため10月号休刊、雑誌協定のため12月号休刊)、12巻1号～6号、13巻1号～6号、4巻1号～6号、15巻1号～6号、17巻1号～6号、18巻1号～6号、19巻1号～5号(6号欠)、20巻1号～6号、21巻1号～3号(1929年3号をもって休刊)、1巻1号～6号(1931年復刊)、2巻1号～6号、2巻1号～6号、3巻1号～6号、4巻1号～6号、5巻1号～6号、6巻1号～6号、7巻1号～6号、8巻1号～5号(6号欠)、9巻1号～6号、10巻1号～6号、11巻1号～6号、12巻1号(2号・追悼号欠)

鈴木三重吉主宰。1936年6月鈴木三重吉死去のため12巻2号(8月号)で終刊。10月360頁の鈴木三重吉追悼号が発行された。「世俗的な下卑た子供の読みものを排除して、子供の純性を保全開発するため」の「一大区画的運動の先駆」という認識のもと、芥川龍之介、北原白秋、島崎藤村、有島武郎など著名な作家、詩人などの執筆を得て、芸術的雑誌をめざした。また、童話・童謡だけではなく、音楽、童画、綴り方、自由詩、自由画などの面でも新しい主張をし、子どもらしい自由な個性ある表現を提唱し、教育の面にも大きな影響を与えた。 \*

### 2 子供の科学 1巻1号～22巻12号 1924/10/1～1936/12/1 132冊 子供の科学社

1924/10 創刊～

1巻1号～3号、2巻1号～12号(5号欠)、3巻1号～6号(5号欠)、4巻1号・4号・5号、5巻1号・2号・4号・6号、6巻1号～6号、7巻1号～6号、8巻1号～6号、9巻2号・4号・5号・6号、10巻2号・5号・6号、11巻1号・3号・4号・6号、12巻1号～6号、13巻1号～6号、14巻1号～6号、15巻1号～6号、16巻1号～6号、17巻1号～6号、18巻1号～6号、19巻1号～6号、20巻1号～5号、21巻1号～12号、22巻1号～12号(7号欠)

大正デモクラシーの子ども中心主義思想と第一次世界大戦に絡む科学振興と密接な関係がある時期に刊行された。この時期には「理化学の思想」が啓蒙され、全国的な理科教育研究組織が初めて誕生するなど、科学読み物の出版ブームとなった。 \*

### 3 セウガク一年生 10巻2号～12巻13号 1934/5/1～1937/1/1 31冊 小学館

1925/4 創刊～

10巻2号～16号(6・12・14号欠)、11巻1号～16号(5・7・12・14号欠)、12巻1号～13号(5・6・8・9・11・12号欠)

創立者相賀武雄が、「子どもは学年によって理解力・判断力・読書力も違う」として、学年別にこだわり創刊した月刊学習雑誌。初期の副題には「趣味と学習模範カタカナ雑誌」とあり学習進度に応じたカタカナで表記された。同誌は戦後飛躍的発展を遂げ、現在でも刊行が続いている。 \*

**4 セウガク二年生 10巻2号～13巻1号 1934/5/1～1937/4/1 37冊 小学館**

1925/4 創刊～

10巻2号～巻、16号(6・12・14号欠)、11巻1号～16号(5・7・10・12・14号欠)、12巻1号～16号(5・12・14号欠)、13巻1号

内容は学習中心であるが、低学年向には物語のおもしろさや挿絵も重視。昭和10年ごろからは質的向上を目指し、人気作家や画家を起用した。北原白秋の童謡に武井武雄の絵、宇野浩二のお話に松本かつちの挿絵などが掲載されている。 \*

**5 せうがく三年生 2巻2号～14巻1号 1925/5/1～1937/4/1 37冊 小学館**

1925/1 創刊～2012/3 休刊

2巻2号、11巻2号～15号(6・7・12号欠)、12巻1号～14号(5・11号欠)、13巻1号～13号(10号欠)、14巻1号

雑誌の構成は基礎学習記事、中間補充記事、趣味娯楽記事の三領域。学習面では各教科(修身、読方、算術、綴り方、書方、理科)の勉強室が設けられ、「学習指導研究会」を組織する高等師範の訓導たちが執筆にあたった。 \*

**6 小学四年生 12巻2号～15巻2号 1934/5/1～1937/5/1 37冊 小学館**

1924/1 創刊～2012/3 休刊

12巻2号～14号(6・11号欠)、13巻1号～14号(5・11号欠)、14巻1号～13号(10号欠)、15巻1号～2号

科学や歴史の読み物が増え、その内容を反映させた付録が数多く付けられた。特に秩父丸(1935/7)や義経八艘飛び(1937/2)など、手工(工作)の学びと銘打った大型組立付録は、当時の子どもたちの大きな娯楽であった。 \*

**7 小学五年生 14巻2号～17巻2号 1934/5/1～1937/5/1 32冊 小学館**

1922/10 創刊～2009/3 休刊

14巻2号～14号(6・11号欠)、15巻1号～14号(5・9・11号欠)、16巻1号～9号、17巻2号

創業者相賀武雄が「おもしろく読んでいるうちに学習の助けとなり、幅広い知識が身につくような雑誌」をめざし、第一に創刊したのが「小学五年生」「小学六年生」である。当初は返本の山だったが、次第に売上をのぼし3年後には「セウガク一年生」まで全ての学年別学習雑誌が揃う。 \*

**8 小学六年生 4巻12号～17巻2号 1926/1/1～1937/5/1 38冊 小学館**

1922/10 創刊～2009/3 休刊

大正15年1月号、14巻2号～12号、15巻1号～14号(5・11号欠)、16巻1号～13号(10号欠)、17巻1号～2号

編集方針の第一義には「少年少女の天分を自由に助成発育すること」とあり、第四には「中等学校入学準備に就いては、最新の材料を蒐集し、本誌の全紙面を通じて入学受験の色彩を以ていろどる。」とある。そのため、「入学試験問題と解答集」など小冊子の付録が多数つけられた。 \*

**9 少女(女子文壇社) 2巻2号～4巻6号 1910/2/1～1912/6/1 19冊 女子文壇社**

1909/9 創刊～1912/7 終刊

2巻2～12号(6・7・9号欠) 3巻1～12号(2・3・4号欠) 4巻4・6号

博文館出身の野口竹次郎が先に「女史文壇」を発行、その後1909年9月に溝口白羊を主筆に「少女」を創刊。1912年8月号から「少年少女お伽世界」誌名変更した。「女子文壇欄」を中心に女子の文章表現力に力を入れた。泉鏡花「吉祥果」や小川未明「赤い船」などが掲載され、文芸色が濃く出ている。

**10 少女(時事新報社) 1号～123号 1913/1/1～1923/2/8 40冊 時事新報社**

1913/1 創刊～終刊年不明

1～19号(5・12・13・15・16・17・18号欠) 23・25・28・29・35・36・38・39・41・42・43・45・46・49号、50～57号、64・65・66・68・121・123号

「日本婦人として家を守り人に交り世に立つには如何なる心得が必要であるか如何なる覚悟がなく  
ては叶はぬかと云ふこと」(創刊号)を基本理念とした。「少年」の姉妹雑誌。編集主任は少年と同じ  
阿倍季雄。記事には、学校教育に関わるもののほか、家庭記事、教養記事、実用記事があり、「良妻賢  
母」を意識した内容であった。

**11 少女倶楽部 3巻2号～15巻5号 1925/2/1～1937/5/1 32冊 大日本雄弁会講談社**

1923/1 創刊～1962/12 終刊

3巻2号～7号(3・4号欠)、12巻5号～11号、13巻1号～12号(3・6・8・10号欠)、14巻1号～  
13号(10・11号欠)、15巻3号、15巻5号

「少年倶楽部」の姉妹誌。対象を低年齢化し小学五・六年生とした。「女子だからといって日本人で  
ある以上、任侠や武勇に共感せぬ筈はない。」という社長野間清治の考えから講談が取り入れられ、創  
刊時の大河内翠山「水戸黄門漫遊記」は好評で迎えられた。付録にも力をそそぎ、手芸や編み物のほ  
か、連載されていた吉屋信子の「花物語」が小冊子になる(1934/8)など、多くの付録がつけられた。

\*

**12 少女の友 1巻1号～32巻11号 1908/2/11～1940/11/1 122冊 実業之日本社**

1908/2 創刊～1955/6 終刊

1巻1号～3号、1巻6号、1巻11号、2巻5号、2巻7号、3巻1号～14号、4巻1号～14号(4  
号欠)、5巻1号～14号(10号欠)、6巻1号～14号、7巻1号～14号、8巻1号～14号(9・10・13号  
欠)、9巻8号、10巻9号、11巻10号、11巻14号、27巻5号～12号(8号欠)、28巻2号～12号(5  
号欠)、29巻1号～13号、30巻1号、30巻4号、33巻11号

「日本少年」の姉妹誌。小学上級生から女学生を対象とした。抒情的雰囲気を中心に、娯楽と教養の  
読み物、読者からの投稿を中心に編集された。初代主筆星野水裏は教育者的な信念を持って内容の細  
部にまで留意し、また愛読者大会、誌友会を開催するなど、読者との「家族的親愛主義」の伝統を育  
てた。

**13 少女世界 1巻1号～20巻5号 1908/9/9～1925/5/1 120冊 博文館**

1906/9 創刊～1931/10 終刊

1巻1号、3巻5号、3巻11号～15号(14号欠)、4巻2号～16号(5・6・12・13号欠)、5巻1号～  
16号(14号欠)、6巻1号～16号(12号欠)、7巻1号～16号、8巻1号～14号、9巻1号～12号、10  
巻1号～12号、11巻1号～12号、12巻1号～7)、20巻5号

「少女世界」の姉妹誌。すでに女学生対象の「女学世界」を刊行していた同社が低年齢層を狙い創  
刊。初期は海賀変哲が主任、巖谷小波が編集人となり、幻燈や講演をもって各地方を巡回した。沼田  
笠峰の指導のもと結成された「少女読書会」の機関誌「たかね」からは吉屋信子をはじめとする多く  
の作家が巣立った。

**14 少年 1号～184号 1903/10/1～1918/11/8 82冊 時事新報社**

1903/10 創刊～終刊不明

1号、7号、9号、10号、16号、54号、62号、64号～68号、70号～72号、76号～82号、84号  
～88号、90号～98号、100号～102号、104号、106号～122号、125号、129号、130号、132号  
～134号、136号、137号、141号～143号、146号、147号、150号～152号、170号、171号、175  
号、177号、178号、180号～184号

教育的な編集方針を特徴とする。時事解説、理科談、地誌的内容の記事、体育的記事、伝記的内容などの記事は、それぞれの専門家やその分野を得意とする人物が執筆しているなど、良心的な編集となっている。

**15 少年倶楽部 2巻3号～24巻2号 1915/3/1～1937/1/15 69冊 大日本雄弁会講談社**

1914/11 創刊～1962/12 終刊

2巻3号～13号(4・9号欠)、3巻1号～12号(3・4・10号欠)、4巻1号～10号(2・7・8号欠)、5巻4号、5巻10号、5巻14号、5巻15号、6巻1号、6巻3号、10巻11号、11巻1号、11巻8号、11巻11号、18巻1号～12号、21巻6号～11号(9・10号欠)、22巻1号～12号(4号欠)、23巻3号～13号(6・8・10・11・12号欠)、24巻2号

創立者野間清治は「国民性の啓発と涵養」を主眼とし、祖先の功績や古今の美談を感銘深く語り聞かせることを理想とした。1921年編集主任が加藤謙一に変わると、それまでの講談読物中心から大衆児童文学へと変化する。掲載された作品は少年小説の黄金期を生み出し、同誌の全盛期を築き上げた。連載長編小説では、吉川英治、大仏次郎、佐藤紅緑、高垣暉、佐々木邦、山中峯太郎らの作品に伊藤彦造、斎藤五百枝、柳川剛一、樺島勝一らが挿絵を描き人気を博した。又、中村星果が考案した付録、ハサミを使わない大型組立模型の存在も特筆に値する。 \*

**16 少年世界 3巻7号～29巻5号 1897/3/15～1923/5/1 108冊 博文館**

1895/1 創刊～1933/1 終刊

3巻7・11・13・16・19・20・23・25号、4巻27号、5巻11・20号、6巻3号、7巻14号、8巻10・11・12号、10巻1・15号、11巻6号、12巻1・2・4号、14巻4・5号、15巻1・3・10・11・13～16号、16巻1～16号、17巻1～16号(2・8号欠)、18巻1～16号(7号欠)、19巻1～15号(14号欠)、20巻1～14号(2～6号欠) 21巻1～7・10号、24巻4号、29巻5号

発刊の主意は「諸君をして娯楽の間に良徳を養い、愉快の裡に明智を得せしむべし。」とある。主筆は、巖谷漣山人(巖谷小波)。内容は論説、小説、史伝、科学、遊戯など多岐にわたり、初期には上田万年、幸田露伴、尾上新兵衛、森田思軒らが執筆。明治児童文学興隆の大きな力となった。

**17 日本少年 3巻1号～12巻9号 1908/1/1～1916/8/1 80冊 実業之日本社**

1906/1 創刊～1938/10 終刊

3巻1号、3巻3号、4巻2号～14号(3・4・6・8・9号欠)、5巻1号～14号(4・11・13号欠)、6巻1号～14号(11号欠)、7巻1号～14号(12号欠)、8巻1号～14号(43・4・6・8・9号欠)

大正期を代表する月刊児童雑誌。表紙絵や口絵に力を入れる編集方針で、高島華宵、竹久夢二などの画家が起用された。実業之日本社社長の増田義一が欧米旅行先から毎号原稿を寄せたのも注目され、大正期には人気を誇り他誌の追随を許さなかった。

**18 文章世界 3巻3号～14巻12号 1908/2/15～1919/12/1 76冊 博文館**

1906/3 創刊～終刊不明

3巻3号～16号(4・6・14号欠)、4巻2号、4巻6号、4巻10号～16号(11・12号欠)、5巻1号～11号(2・6・10号欠)、5巻13号(明治43年9月号)、5巻13号(明治43年10月号)、5巻15号、5巻16号 6巻2号、6巻7号～16号(9・11・12・15号欠)、7巻1号～4号(3号欠)、7巻10号～14号(11号欠)、8巻9号、9巻4号～9巻7号、10巻4号、11巻5号、11巻9号、13巻1号～12号、14巻1号～14巻12号

『中学世界』の読者層の成長に伴うように刊行された。主筆は田山花袋であり、『中学世界』の投書少年たちが、常連の執筆者となっていった。言文一致を唯一の文体とした。 \*

**19 中学生 1巻1号～29巻4号 1916/5/1～1945/12/1 27冊 研究社**

1916/5 創刊～1945/12 終刊

第1年1号～8号、第2年1号～第2年6号、9巻10号、28巻1号～10号、29巻3号、29巻4号

研究社は明治時代に英語の辞典、参考書などを出版、現在に至っている。発行・編集人は大正時代は小酒井五一郎、昭和19年8月から小酒井益蔵。主筆は有本芳水、著者に甲賀三郎、村野四郎、野尻抱影などが執筆している。内容は中学生向けの英語、数学、物象（物理）などの学科解説、高校入試のアドバイスその他、小説、詩、科学記事、時事的な話題、伝奇、立志伝、科学小説、漫画などで構成されている。 \*

**20 中学世界 4巻3号～22巻10号 1901/10/10～1919/8/1 79冊 博文館**

1898/9 創刊～終刊不明

4巻13号、6巻12号、7巻1号、7巻4号、7巻12号～15号(14号欠)、8巻12号、9巻5号～13号(8・9・10号欠)、10巻3号～16号(4・6・9・10・11・12・13・15号欠)、11巻1号、11巻4号、11巻12号、11巻15号、12巻5号～15号(9・10・13号欠)、13巻1号～16号、14巻1号～8号、14巻8号(夏季増刊)、14巻10号～15号、15巻1号～4号、15巻12号、19巻14号、21巻4号、21巻14号、22巻1号～10号

博文館ははやくから教育メディアとの結びつきを深めたが、この『中学世界』も「普通教育の完成所」として体系化されていく中学校の生徒を対象とし、「読む」「書く」ということに力を入れた。投書欄に多くのページを使って発表の場を提供し、読者の「読み」、「書く」志向を育てた。

\*

**21 実業少年 1巻4号～6巻13号 1908/4/1～1912/12/1 59冊 博文館**

1908/1 創刊～1912/12 終刊

1巻4号・6号、2巻2号・4号・5号、3巻1号～14号(12号欠)、4巻1号～14号、5巻1号～14号、6巻1号～13号

商家の徒弟、商業補修学校生徒が対象。人生訓、成功実話、実用知識、時事問題だけではなく、産業・社会の仕組みや見通しを分析する広い視野の記事をのせた。 \*

**合計冊数 1,443冊**